

1. 事業計画

事業の名称所在地・利用定員		
1	学校法人織田学園 幼保連携型認定こども園	東京都多摩市落合5-7-2
2	幼保連携型認定こども園事業	利用定員 270名 実数 273名
運営方針		
<p>(1) 幼保連携型認定こども園の役割を理解し、子どもの最善の利益を考慮し、地域に開かれた園として運営する事を目的とする。</p> <p>(2) 養護及び教育の提供に当たって、愛着関係を基盤に非認知能力を育み、情緒の安定と、乳幼児の健全な育成を目指していく。</p> <p>(3) 幼保連携型認定こども園の特色でもある多様な子ども達の育ちに配慮し、一人ひとりに応じたきめ細かい子育て支援が出来るように地域の専門機関との連携を図る。</p> <p>(4) 保護者の保育参加や保護者同士のつながりを通して子ども理解が深まり、子育ての楽しさが実感できるように様々な場の提供と情報発信し支援を行う。</p> <p>(5) 全職員による、園内研修の充実や個人の専門性を生かすと共に更に強化し保育教諭の質の向上と人材育成に努める。</p>		
中期経営計画（2019～2021）		
<p>○東京オリンピック・パラリンピックを機会として子どもの健康な体の育成に重点をおく。</p> <p>○環境スケールに基づいた保育の実践に取り組むためにスケールの理解をする。</p> <p>① 年齢に応じた必要な体の動きを理解し、子どもが主体的に体を動かして遊ぶことが楽しいと感じられるように1日60分以上は体を動かす遊びの時間が持てるようにする。 (家庭での時間も含める)</p> <p>② 運動を通して様々な精神力・知力・身体力を「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」と照らし合わせ関連づけながらカリキュラムマネジメントをしていく。</p> <p>③ 運動習慣の基礎作りを通して、幼児期に必要な多様な動きの獲得や体力、運動能力の基礎を培うとともに、様々な活動への意欲や社会性などを育む。</p> <p>④ 2020年のオリンピック・パラリンピックは、いろいろな国の特色を知ったり多様な文化に興味を持ったり日本の良さに気づいたりできる機会と捉えて、積極的に生活に取り込んでいく。</p> <p>⑤ 主体的（子どもの心が動き行動が生まれる）な生活をするためのしかけを作り、様々な「なぜ？ どうして？」の好奇心が生まれるようにしていく。特に自然との繋がりを軸に保育を展開していく。</p> <p>⑥ 子どもの非認知能力の育ちを重視すると共にその教育の質や成果を伝える際にそれを「可視化」し保護者に更にわかりやすく伝える。</p>		

2 保育理念から重点的に取り組む目標

【体のたくましさを育む】

現状と課題	<p>幼児の体力の低下は平成 19 年度から 21 年度実施した文科省の体力向上の基礎を培うための幼児期における実践活動の在り方に関する調査においても体力の減少傾向が示唆されており、その後もこの傾向が続いている。当園では、平成 25 年～27 年までの 3 年間にも体のたくましさを重点課題とし、特に「怪我をしないからだ作り」の取り組みを行った結果、園内での怪我の発生を減らす事ができ一定の効果が出たと考えられる。体力や運動能力は日々の活動量の積み重ねが重要で、あそびを通して様々に体を動かしていかなるよう継続的に取り組まなければならない。0 歳児から就学前までこども園全体で取り組んでいく必要がある。</p>
取組方針	<p>文科省の運動指針を基本に園全体で運動に関する発達年齢を理解して取り組む。特に幼児期は、神経機能の発達が著しく、タイミングよく動いたり、力の加減をコントロールしたりするなどの運動を調整する能力が顕著に向上する時期である。この能力は、新しい動きを身に付けるときに重要な働きをする能力であり、遊びを通して様々な運動能力が向上する事を目指し日ごろから体を動かすことの楽しさと自分の体が思うように動くことで得られる達成感が感じられるような取り組みをしていく。</p>
実行計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 毎月のカリキュラムに体のたくましさを育むねらいを立てて、設定を行い実践から評価反省分析する。 2. 幼児運動指針に基づいて計画を立て、保護者への情報提供も行き、家庭との連携を図る。 3. 体を動かす遊びのための環境の質を評価し、課題を明確化し改善を図る 4. 健康な体と食事は密接な関係があり、旬で安全安心な食材を定期的に提供できる仕組みを作る。
現状と課題	<p>園庭環境の整備については、昨年度末職員からの提案で始めた園庭環境の充実を考えてきた。子ども達が主体的に体を動かしたくなる園庭・植物や生き物との関わりを通して学びが深められる園庭作りについて自分たちやパパ会の協力で進めてきたが、十分な成果がでていない。</p>
取組方針	<ul style="list-style-type: none"> ・実際に園庭改造を行うために、専門業者に依頼し検討をする。 ・園庭改造に向けて専門家を招いた研修を行い職員の共通理解を図る。(5 月研修)

【重点課題】

運動指針の理解と実践

現状と課題	<p>指針に沿った保育の構築に向けて、職員が指針を理解し、実践と振り返りを行いカリキュラムに反映させていく事が質の高い保育の提供につながる為、職員はより一層専門性を向上させていく事が必要とされる。</p> <p>重点目標でもある「からだのたくましさ」を育むことに特に意識を持って取り組むが、実践的な事だけではなく健康な体作りにも重点をおき、子どもの成長のためにより安全で、現在の子どものに必要な栄養素を十分に含む食材を提供できるように、栄養士や看護師との連携も必要である。</p>
実行計画	<p>運動指針に基づいて園児の発達の実情に照らし合わせながら園児一人ひとりが生活を通して必要な経験が得られるような具体的な指導計画の作成を行い評価反省分析する。</p> <ul style="list-style-type: none">・「幼児期に身に付けておきたい36の基本動作」をおだ認定こども園の子どもの実態に合わせて、必要な動きの検証を行い、次年度につなげていく。・有機野菜・有機米の栽培農家と契約をし、子ども達の食環境を改善する。・パラリンピック競技「ボッチャ」を職員とおだパパ会とで体験し地域との交流を図る

同僚性を育む職員

現状と課題	<p>幼保連携型認定こども園では在園時間の異なる園児が共に過ごすことから集団の規模が変わったり、過ごす場所が変わったり2号認定こどもの環境の変化が生じる。このため1号・2号担当職員の細かい連携が欠かせず重要である。</p> <p>幼保のリーダーが連携し実情を知ると共に園全体のニーズを把握し、同僚性を持って互いの専門性を高めていかれるように強化を目指す。</p>
実行計画	<ul style="list-style-type: none">・キャリアアップ研修受講・リーダー会議(年6回)

リーダー保育教諭の専門性の強化

現状と課題	<p>『職員への指導と支援』</p> <p>人材育成に力を注ぎ新人研修をしてきたが、指導が必要なのは、新人だけではなく2年・3年とそれぞれの時代にも迷いや不安があり、誰に相談して良いか分からなくなる事があるので、若手・中堅が必要なところには支援をし職員の定着を図る。</p>
実行計画	<ul style="list-style-type: none"> ・主幹教諭による新人研修・若手・中堅会を開き、安心して職務を遂行できるようにする。 ・職員から相談しやすい体制を確立する（キャリア別会議各年3回） ・園長面接を年2回行う
現状と課題	<p>『職場環境の改善』</p> <p>雇用形態の異なる職員が各部で働いている現状で、互いの仕事内容が理解しにくい状況もある。保育部幼児部の職員の人材交流や全体会議等を通して、チームワークを高め合う必要がある。また、昨年度有休取得40%を実行し今年70%以上を目指し、職員のリフレッシュに繋げる。</p>
実行計画	<ul style="list-style-type: none"> ・有休取得70%以上 ・勤務時間内に仕事が終わるように仕事内容や情報伝達方法を改善していく ・会議が多くならないように、整理し必要最小限に見直し改善し就労時間内で終わるようにする。 ・保育部は遅番勤務を利用して事務にかかる時間の確保ができるようにする。
現状と課題	<p>『業務の改善』</p> <p>就労時間内に仕事が追えるように職員同士の協力体制は良いが、行事等に係る業務について担当職員の負担感がある。また会議が多くなると予定時刻を過ぎてしまうこともあり、効率よく勤務時間内に終わらせるように改善が必要である。</p>
実行計画	<ul style="list-style-type: none"> ・リーダーを中心に学年の会議や仕事の進め方の見直しを行う ・事務に係る仕事や行事の細案等は、データ化し作業時間の短縮を目指す。

安心・安全な生活を保障する園づくり

現状と課題	<p>2号認定児のニーズは年々増加し長時間園で過ごす子どもと大人の数は増えている。時間帯によって大人の数も子どもの数も異なり、災害等の対応も一つのパターンでは対応ができない。様々な状況を予測し、実践に近い形をイメージして対応ができるように職員同士で共通認識をしておく必要がある。</p> <p>安全安心を第一に考えている施設に子どもを預けられる事は保護者の願いであり、施設の基本であるので、常に安全に対して様々な角度から見直し進化していく必要がある。</p>
実行計画	<ul style="list-style-type: none"> ・緊急時対応実践研修を実施する ・危機管理マニュアルを作成する

保護者と地域との連携

現状と課題	<p>バスキャッチアプリの導入で、欠席連絡や一時預かり予約等では速やかに対応できるようになった。子ども達の日常生活の様子を保護者にホームページで発信をしているが学年によって発信のばらつきがあり、保護者の期待に答えられていないこともある。担任だけでは対応の難しさがある為、対応を検討する必要がある。</p>
実行計画	<ul style="list-style-type: none"> ・担任以外のフリー職員が年中・長組の子どもの遊びの姿を写真で取って情報発信できるように連携を取っていく。 ・週2回以上学年の様子を発信する。
現状と課題	<p>地域との連携では、継続して行ってきたことで、より良い方法を見いだせたり、一層充実した連携の方法を検討したりしていくことが出来るようになってきている。連携を通して子どもに何が育っているのかを明確にし、更なる連携の可能性の効果を図りたい。</p>
実行計画	<ul style="list-style-type: none"> ・西落合小学校（年4かい） ・西落合小学童（8月） ・あい介護保険施設

子育て支援事業

現状と課題	0歳児入所の人数が減少し、育児休暇の取得率が上がっていることがうかがえる中、1歳児入所が増加してくる事を予想し、育児休暇中家庭で子育てしている親子への支援の必要性を感じている。定期的に応場に来て子育て中の親同士の交流や初めて子育てする事への不安を和らげられるような広場事業の充実を図る。
実行計画	<ul style="list-style-type: none"> ・0歳児クラス事業開始利用者6組以上 ・ランチを提供し、ホットできる時間を提供 ・離乳食講習会開催（9月から）

2019年度おだ認定こども園全体的な計画（別紙）

1. 施設運営

（1）児童の処遇

編成4月2日現在

	1号	2号	3号	合計
0歳児			4	4
1歳児			19	19
2歳児			20	20
3歳児	41	24		64
4歳児	54	30		84
5歳児	47	35		81
累計	142	89	43	274

2. 職員の体制

	常勤	非常勤	非常勤
		保育部	幼児部
園長	1名		
副園長	1名		
教頭	1名		
主幹保育教諭	2名		
保育部保育教諭	19名	21名	
幼児部保育教諭	10名		10名
小計	33名		
栄養士	2名		
看護師	1名		
事務	2名	1名	1名
調理	1名	4名	5名
バス運転士			3名
バス添乗			4名
合計	39名	26名	23名

3. 年間行事（詳しくは別紙）

月	幼・保共通		保育部	
4月	入園式	教育懇談会 年長園外保育	親子の集い	懇談会
5月	おむすび遠足	保護者会総会長 父親親睦会	2歳親子遠足	
6月	おだキッズデー おむすび遠足	プール開き 同窓会	個人面談	
7月	夕涼み会	お泊り保育		
8月	夏期保育			
9月	おむすび遠足・移 動動物園・	移動動物園 教育懇談会	教育懇談会	

10月	作品展・おむすび 遠足	芋ほり遠足 サンマー本焼き	きりん組遠足	
11月	おむすび遠足 ミカン狩り	おだまつり	保育参観	
12月	餅つき大会			
1月	観劇会			
2月	子ども会	教育懇談会	個人面談	
3月	お別れ遠足	卒園式		

4. 保健衛生計画

1. 園児に関すること

項目	頻度等
園児定期内科健康診断（1号認定）	年 2回（5月・9月）入園前検診
園児定期内科健康診断（2号・3号認定）	年 2回（5月・9月～10月）・新入園時
園児0歳児健康診断	年 12回（毎月第3金曜日）
園児身体測定（0・1・2歳児）	年 12回（毎月月初め）
園児身体測定（3・4・5歳児）	年 3回（学期1回）
園児歯科健診	年 1回（6月）

2. 職員に関すること

項目	頻度等
職員定期内科健診	平和予防医学グループ平和診療所 により 年 1回（5月）
職員便細菌検査（給食室・調乳担当者）	（株）日本環境衛生研究所 により 年 12回（毎月）以上
職員便細菌検査（保育部常勤職員）	年 12回（毎月）以上
職員便細菌検査（保育部012歳非常勤）	年 2回（5月・11月）以上
職員便細菌検査（上記以外の全職員）	年 1回（7月）以上
ストレスチェック（常勤対象者）	年 1回（10月）*学園本部管理

3. 施設設備・保育用品に関すること

項目	頻度等
園児使用午睡布団乾燥	ライトサンクリーン により 年 24回 (毎月 2回) *洗い 年 1回 (3月)
園児使用絨毯クリーニング	ライトサンクリーン により 年 1回 (8月)
エントランス等マット交換	サニクリーン により 年 24回 (月 2回)
グリストラップ定期点検	AIC により 年 1回 (11月)
受水槽清掃	(株) コーシンビルサービス により 年 1回
全館清掃	アピアにより 年 1回 (3月)

5. 予算 30 万以上のものを計上

内容	金額
第三者評価受審	600,000 円
エアコン清掃	1,330,000 円
年末清掃	750,000 円
給食室設備	1,500,000 円
1 階保育室床暖房工事	2,000,000 円
園庭環境整備	3,000,000 円
樹木管理等 業務委託料	400,000 円
園内保育室不具修理	300,000 円

6. 食育

無農薬の契約農家から取り寄せた食材を使用し、安全安心な給食を提供することを心掛ける。

旬の食材を提供するとともに、子ども達にも季節の野菜を知りその特徴を分かりやすく伝えたり、食べる事で体にどのような効果があるのか知らせたりし、積極的に食に興味を持ち食べる意欲につながるようにする。

【旬の食べ物に触れて旬を実感する体験】

*栽培経験 (ジャガイモ・大根・夏野菜等)

*ミカン狩り・サツマイモ堀・さんまの一本焼き

7. 安全管理

非常災害時の避難訓練（毎月）

引き渡し訓練の実施（年1回）

不審者訓練（年2回）

8. 研修計画

職員の専門性を高め保育の質の向上を目指し、園内研修も充実させていく

園内研修（5月・7月・1月・3月）

キャリアアップ研修に積極的に参加する

9. 職員の労働条件の向上に向けて

①職員の有休について取得率70%以上を目指す

②計画有休1日以上取得

③処遇改善費を活用して、職員が自分のライフスタイルに合わせ、見通しを持ったキャリアアップが出来るように支援する。

④職員と面談を年に1回以上行い、職員の意欲や希望を受け取り、適切な研修を受けられるようにしたり、本人の専門性を引き出せるようにしたりする。

10. 特別保育事業

① 延長保育事業 原則として1時間延長保育を行い19時までとする。

② 子育て広場事業 月曜日から金曜日 12:30～15:00 育児相談・ベビーマッサージ・親子活動

③ 一時預かり事業

④ 中高生保育体験事業（落合中学校・鶴牧中学校・青陵中学校）

⑤ 西落合小学童クラブとの交流（夏のボランティア受入れ）

11. 施設管理

①事務関係

* 幼児教育と保育の無償化に伴いシステムの変更を行う。

* 事務職員が定年退職になる為、事務の仕事を滞りなく引継ぎができるようにする

② 施設関係

施工から10年経過するので、修理箇所等を確認して随時対応する

③ 空調の清掃（業者）

12. 保護者に向けて

①幼児教育と保育の無償化を控えて、10月以降の給食費等の国の動向、確かな情報を素早くとらえ、必要に応じて保護者へ情報提供し園の方向性を示していくように努める。

*保育参観は日程を複数設定し実施する。

②クラス懇談会

0・1・2歳児は年2回

3歳以上児は年2回 昼の部と夕方の部の2部制にし、2号認定の保護者が参加しやすいようにする。

③個人面談

年に1回実施する

④お知らせ

*家庭通信毎月発行

*保護者への発信は紙ベースとホームページを効率的に活用し、日常の様子は視覚的に伝えて、保育内容については、文章化してしっかりお知らせしていく

*保健だより毎月発行

*給食だより毎月発行

*献立表毎月発行

*ホームページで日々の保育の様子を知らせる

13. 地域社会との連携

地域に開かれた園を目指し、地域との関わりを積極的にもつよう努める

① 落合地区青少協への参加

*年6回の定例会に園長が出席し地域の夏祭りにゲームや綿あめ販売などに協力する

*どんど焼きでは、トン汁作り

*近隣小学校・中学校・老人施設・学童保育・児童館との連携

*保幼小連携

*大松台小学校と貝取小学校の学校評価委員を受け年3回会議に出席する

14. 評価

① 外部評価 学校評価委員による会議を年3回以上行う 年度末には評価委員による評価を実施 今年度は第三者評価受審実施

② 保護者による評価

*1年に1回利用者アンケート

*行事ごとの評価アンケート